

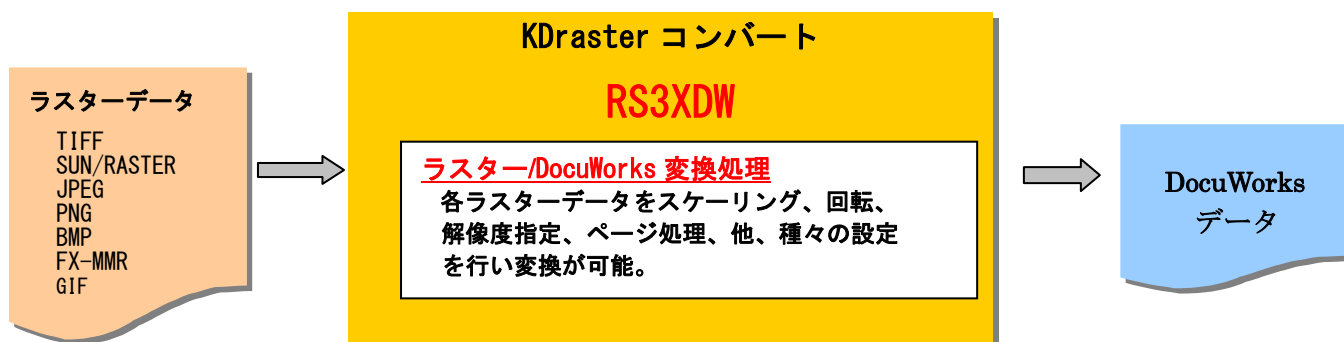
RS3XDW (ラスター/DocuWorks 変換ソフト)



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

ラスターデータに様々な設定を加え、DocuWorks へ変換が可能です。



主な特徴

- ・ コマンドラインアプリケーションで、フォルダ内を一括変換が可能
- ・ 読み込み可能なラスターデータは次の通りです。
TIFF, SUN_RASTER, XWD, JPEG, BMP, PCX, MMR, MR, MH, FAX, CALSG4, IOCA, IBM_MMR, FX_RASTER, EDMICS, MIEL, TOSFILE, NSXPRESS, XBITMAP, GTX_G4, FORMTEK, PNG, PBM, PGM, PPM, CCRF, EXIF, WBMP, GIF
- ・ 出力可能なフォーマット
XDW
- ・ DocuWorks7.0以上がインストールされている場合は2400mmx2400mmまで出力することが可能。
- ・ DocuWorks6.x以下がインストールされている場合は500mmx500mmまで出力することが可能。
- ・ 制限サイズを超えるデータを復元可能な状態で縮小して出力することが可能。(解像度自動調整)
- ・ 用紙サイズ(A0~A4、長尺)毎に出力フォルダを指定することが可能。
- ・ セキュリティ設定(パスワードと機能制限)が可能。
- ・ マルチページ/シングルページ処理。
- ・ 拡大・縮小(スケーリング)、回転、クリッピング、オフセットの処理
- ・ モノクロ、カラーについての画像設定
- ・ 複数イメージの合成(マージ)処理
- ・ DocuWorksのOCR機能を利用して、OCR処理を行い、結果を反映したりテキストファイルに出力したりすることが可能
※DocuWorks9.0.0は不可、DocuWorks9.0.1以上は「DocuWorks OCR License」が必要
- ・ アノテーション(テキスト、日付印、リンクボタン、ビットマップ)の貼り付けが可能
- ・ バインダー処理が可能
- ・ 入力ファイルの添付が可能
- ・ 自己解凍形式ファイルの出力が可能
※DocuWorks9は不可
- ・ 出力結果(XDW, ログファイル、任意メッセージ)を指定メール先に配信することが可能

操作説明

KDraster コンバートは、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込むことができます。

「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中から実行します。

属性ファイルの設定

変換を始める前に、変換に必要な情報を属性ファイル上で設定します。通常、基本的な初期値があらかじめ設定されています。

```
ras_in.atr-----ラスター入力設定属性ファイル
xdw_out.atr-----DocuWorks 出力設定属性ファイル
```

実行例

ラスターデータを変換するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
実行モジュール名  入力ファイル  -0出力ファイル  -各オプション
```

例：この例では入力ファイル[in_file.tif]が A3 サイズを超えるものは A3 サイズに縮小し、A3 サイズ以内のものはそのままの大きさで、out_file.xdw として出力します。

```
> RS3XDW in_file.tif -0out_file.xdw -AJ -P3 -AK
```

- RS3XDW : 実行モジュール名
in_file.tif : 入力ラスターファイル名
out_file.xdw : 出力ファイル名
- 0 : 変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。
マイナス記号とアルファベットの「オー」です。-0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定することはできません。
- AJ : 指定したファイルサイズより大きい場合のみそのサイズに収まるように縮小するオプション。
- P : 用紙サイズを番号で指定するオプション。
3 は A3 サイズです。
用紙の向きは自動的にデータに合わせます。

※オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。
※オプションの詳細についてはオプションの項目を参照ください。

アノテーションの貼り付け

アノテーション定義ファイルを使って、変換結果ファイルに複数のアノテーションを貼り付けることができます。

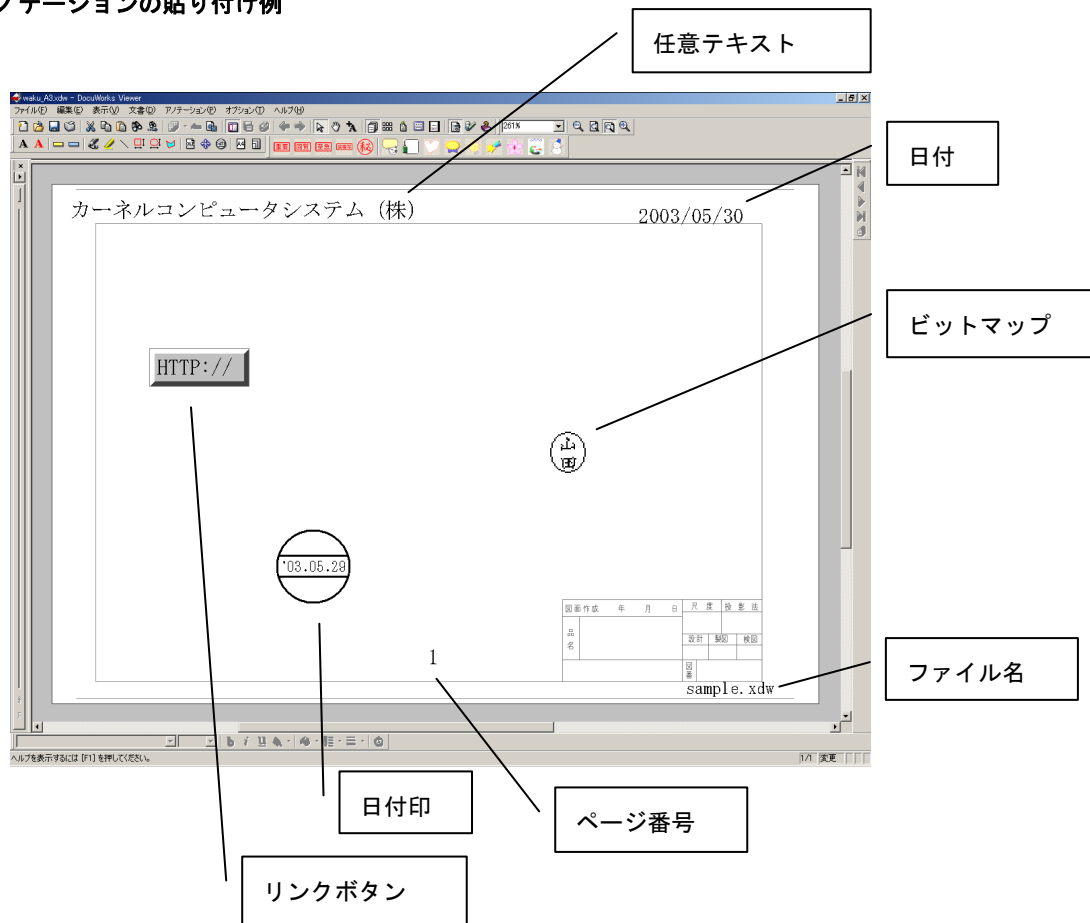
-TX[text_file] : 貼り付ける内容を記述したアノテーション定義ファイルを-TX オプションで指定して実行します。

・アノテーション貼り付け処理を実行するコマンドライン

(各変換処理のログを残す場合は、-rireki オプションも指定します。)

> RS3XDW 入力ファイル名 -O 出力ファイル名 -TX アノテーション定義ファイル名

・アノテーションの貼り付け例



・アノテーション定義ファイルサンプル



共通設定領域でデフォルトの文字フォントと文字サイズを指定しています。

個別設定領域①で「SET_PAGE_NO=Y」を設定してページ番号の自動振り分けを ON にしています。
「POSITION_NO=5」の設定で中央下には貼り付けるよう設定しています。

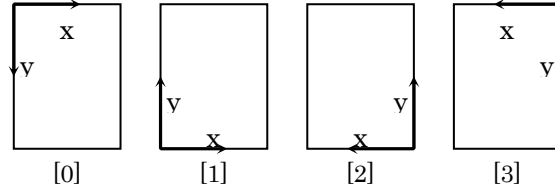
個別設定領域②では MOJI_FONT_NAME と MOJI_POINT を設定してデフォルトの文字フォント、
サイズとは違った設定で「カーネルコンピュータシステム (株)」を右上に貼り付けるように設定しています。
「MOJI_REF=0」でテキストアノテーションの原点を左上に設定することにより、(0, 0)の位置に貼り付けても
用紙外に出ないようにしています。アノテーションの原点の初期値は左下なので(0, 0)だと用紙外になってしまいます。

個別設定領域③では「SET_FILENAME=Y」と「POSITION_NO=2」の設定で出力ファイル名を右下に貼り
付けるように設定しています。
「PAGE_NUMBER=1」を設定することにより最初のページのみに貼り付けを行うように設定しています。

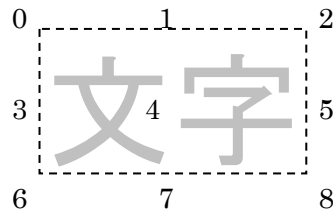
個別設定領域④では「DATE_TIME=Y」と「POSITION_NO=3」の設定で日付を右上に貼り付ける
ように設定しています。
「PAGE_NUMBER=1」を設定することにより最初のページのみに貼り付けを行うように設定しています。

・アノテーション定義ファイルのパラメータの説明

*GROUP	個別設定領域の開始
*END	個別設定領域の終了
ORG_X	アノテーションの貼り付け位置 X を指定します。
ORG_Y	アノテーションの貼り付け位置 Y を指定します。
MOJI_ORG	用紙の原点を指定します。



MOJI_REF	アノテーションの原点を指定します。
----------	-------------------



PAGE_NUMBER	アノテーションを貼り付けるページ番号を指定します。
ATN_MODE	貼り付けるアノテーションの種類を指定します。
MOJI_FONT_NAME	文字フォント名称を指定します。
MOJI_RIGHT	太文字フォントを指定します。
MOJI_ITALIC	斜体文字を指定します。
MOJI_UNDERLINE	文字にアンダーラインを引くように指定します。
MOJI_STRIKEOUT	文字に取り消し線を引くように指定します。
MOJI_POINT	文字のサイズをポイント単位で指定します。
MOJI_COLOR	文字の色を指定します。
MOJI_BCOLOR	文字の背景色を指定します。
MOJI_DIRECTION	文字の横書きか縦書きを指定します。
MOJI_PATH	文字の回転角度を指定します。
TEXT	任意テキストの文字列を指定します。

ATN_BITMAP	貼り付けるビットマップファイル名を指定します。									
ATN_DATECOLOR	日付印の色を指定します。									
ATN_DATESTYLE	日付印の日付表示を自動か手動かに指定します。									
ATN_TOPFIELD1	日付印の上段領域の文字列1を指定します。									
ATN_TOPFIELD2	日付印の上段領域の文字列2を指定します。									
ATN_BOTTOMFIELD1	日付印の下段領域の文字列1を指定します。									
ATN_BOTTOMFIELD2	日付印の下段領域の文字列2を指定します。									
ATN_FIRSTCHAR	日付印の日付の最初の文字を指定します。									
ATN_YEARFIELD	日付印の年を指定します。									
ATN_MONTHFIELD	日付印の月を指定します。									
ATN_DAYFIELD	日付印の日を指定します。									
ATN_LINKCAPTION	リンクボタンのタイトルを指定します。									
ATN_LINKICON	リンクボタンにアイコンを表示するか指定します。									
ATN_LINKINVISIBLE	リンクボタンを表示するか指定します。									
ATN_LINKRESIZE	リンクボタンのサイズを指定します。									
ATN_LINKTYPE	リンクボタンのタイプを指定します。									
ATN_LINKXDWMODE	リンクボタンのリンク先の指定方法を指定します。									
ATN_LINKPAGEMODE	リンクボタンのリンク先のページ指定方法を指定します。									
ATN_LINKPAGE	リンクボタンのリンク先ページ番号を指定します。									
ATN_LINKXDWINXBD	リンクボタンのリンク先文書名を指定します。									
ATN_LINKANNO	リンクボタンのリンク先リンクアノテーション名を指定します。									
ATN_LINKXDW	リンクボタンのリンク先 DocuWorks ファイル名を指定します。									
ATN_LINKURL	リンクボタンのリンク先 URL を指定します。									
ATN_LINKOTHER	リンクボタンのリンク先ファイル名を指定します。									
ATN_LINKMAIL	リンクボタンのリンク先メールアドレスを指定します。									
SET_PAGE_NO	ページ番号を自動割り付けするかどうかを指定します。									
SET_FILENAME	ファイル名を自動割り付けするかどうかを指定します。									
DATE_TIME	日付を自動割り付けするかどうかを指定します。									
POSITION_NO	ページ番号、ファイル名、日付の自動割り付け位置を指定します。									
	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">0</td> <td style="padding: 5px;">7</td> <td style="padding: 5px;">3</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">4</td> <td style="padding: 5px;"></td> <td style="padding: 5px;">6</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">1</td> <td style="padding: 5px;">5</td> <td style="padding: 5px;">2</td> </tr> </tbody> </table>	0	7	3	4		6	1	5	2
0	7	3								
4		6								
1	5	2								
PAGE_START_NO	ページ番号の自動割り付けを開始するページ番号を指定します。									
PRINT_MODE	ページ番号のフォーマットを指定します。									
DATE_MODE	日付のフォーマットを指定します。									

メール送信

-EM オプションを使用して、変換結果を E-Mail で送信します。
メール送信するための設定(送り先や送信内容など)はメール送信用環境パラメータファイル「eml_out.atr」で行います。

実行モジュール名 入力ファイル -o出力ファイル -em

[メール送信用環境パラメータファイルのパラメータ]

SERVER	メール送信先の SMTP サーバーを設定します。
ADDRESSn	送信先メールアドレスを設定します。 nには1~10の番号を指定することにより最大10個の設定ができます。
SEND	送信元メールアドレスを設定します。
ATTACH_FILE	メールに添付するファイル名を設定します。
MSG_FILE	添付するメッセージファイル名を設定します。
ATTACH_FLGn	添付するファイルの種類を設定します。 nには1~10の番号を指定することにより最大10個の設定ができます。
ATTACH_COMP_FLGn	添付ファイルを圧縮するかどうかを設定します。 nには1~10の番号を指定することにより最大10個の設定ができます。
MSG_COMP_FLG	添付するメッセージファイルを圧縮するかどうかを設定します。
OUT_DEL_FLG	変換されたファイル(-oパラメータの指定先)の削除方法を設定します。
EML_TITLE	送信メールの件名を指定します。

●注意事項

- 1回で最大10箇所までのメール送信先 (ADDRESS) の指定が可能になっています。
従って、パラメータの ADDRESS, ATTACH_FLG, ATTACH_COMP_FLG には、送信先番号 (1~10) を送信する件数分をそれぞれのパラメータに指定する必要があります。
送信先が1つであっても番号 (1) を指定して下さい。

[メール送信用環境パラメータファイルのサンプル]

変換結果のみをメールする設定

```
##### eml_out.atr #####
# SERVER HOST NAME
SERVER = MailServer
# SEND E-MAIL ADDRESS
ADDRESS1 = person1@mailserver
ADDRESS2 = person2@mailserver
# SENDER
SEND = person@mailserver
# MESSAGE FILE NAME
#MSG_FILE = sample.txt
# THE APPEND FILE NAME
#ATTACH_FILE = Test.dat
# APPEND FILE SEND FLAG #
ATTACH_FLG1 = 0
ATTACH_FLG2 = 0
# APPEND FILE COMPRESION FLAG #
#ATTACH_COMP_FLG1 = 0
#ATTACH_COMP_FLG2 = 0
# OUTPUT FILE DDELETE FLAG #
#OUT_DEL_FLG = 0
# E-mail TITLE
#EML_TITLE = 変換結果
##### eml_out.atr #####
```

変換結果と変換されたファイルをメールする設定

```
##### eml_out.atr #####
# SERVER HOST NAME
SERVER = MailServer
# SEND E-MAIL ADDRESS
ADDRESS1 = person1@mailserver
ADDRESS2 = person2@mailserver
# SENDER
SEND = person@mailserver
# MESSAGE FILE NAME
#MSG_FILE = sample.txt
# THE APPEND FILE NAME
ATTACH_FILE = *
# APPEND FILE SEND FLAG #
ATTACH_FLG1 = 1
ATTACH_FLG2 = 1
# APPEND FILE COMPRESION FLAG #
ATTACH_COMP_FLG1 = 0
ATTACH_COMP_FLG2 = 1
# OUTPUT FILE DDELETE FLAG #
#OUT_DEL_FLG = 0
# E-mail TITLE
#EML_TITLE = 変換結果
##### eml_out.atr #####
```

変換結果と変換されたファイルの名前を test.dat に変更してメールする設定

```
##### eml_out.atr #####
# SERVER HOST NAME
SERVER = MailServer
# SEND E-MAIL ADDRESS
ADDRESS1 = person1@mailserver
ADDRESS2 = person2@mailserver
# SENDER
SEND = person@mailserver
# MESSAGE FILE NAME
#MSG_FILE = sample.txt
# THE APPEND FILE NAME
ATTACH_FILE = test.dat
# APPEND FILE SEND FLAG #
ATTACH_FLG1 = 1
ATTACH_FLG2 = 1
# APPEND FILE COMPRESION FLAG #
ATTACH_COMP_FLG1 = 0
ATTACH_COMP_FLG2 = 1
# OUTPUT FILE DDELETE FLAG #
#OUT_DEL_FLG = 0
# E-mail TITLE
#EML_TITLE = 変換結果
##### eml_out.atr #####
```


バッチ変換

バッチオプションを使用して、指定したファイル又はディレクトリ内のファイルの一括処理が可能です。
バッチファイルを作成後、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
実行モジュール名 -BATCHバッチファイル名
```

[バッチファイルのサンプル]

エディターを開き以下の要領でバッチファイルを作成します。
作成後、任意のファイル名でカレントディレクトリに保存してください。

(1) 1つのファイルを違うパラメータで違うファイル名で変換します。

```
>Sample.data -Osample1.data -P4 -AJ  
>Sample.data -Osample2.data -P3 -AJ
```

(2) 拡張子.dataのファイルを拡張子.xdwのファイルに変換します。

(ファイル名は自動的に検索されます)

```
>*.data -O*.xdw -P4 -AJ
```

フォルダ内の拡張子が.dataのファイルすべてを.xdwに変換します。

例：変換内容に合わせてバッチファイルを作成後“batch.txt”という名前で保存します。

```
> RS3XDW -BATCHbatch.txt
```

RS3XDW	：	実行モジュール名
batch.txt	：	バッチファイル名
-BATCH	：	バッチ処理を行うオプション

変換時のオプション

RS3XDW には、変換時に指定できる様々なオプションが用意されています。

- ・オプションは、「-」で始まります。
- ・オプションには、大文字/小文字の区別はありません。
- ・パラメータがある場合は、空白を開けずにオプションの直後に指定します。
(例) オプションが「-0」、パラメータが「file」の場合:
 (正) -0file
 (誤) -0 file
- ・複数のオプションを同時に指定する時は、それらを空白で区切ります。
- ・オプションを指定する順番は、処理の内容には影響しません。

1. 入出力ファイル指定に関するもの

- O[filename]** : 変換結果を出力するファイル名を指定します。
例えば、「-Otest.rs」と入力すると、test.rs に出力データが得られます。
Windows 版では、このオプションを必ず指定しなければなりません。
- APPEND[filename]** : 出力ファイルに添付するファイルのリストを記述したテキストファイル名を指定します。例えば、「-APPENDinst.txt」と入力すると、inst.txt に記述されているファイルを出力ファイルに添付します。
- I[idx_file]** : 変換を実行すると、変換後のドット数や解像度などの情報を含むテキストファイルが自動的に作成されます。通常、そのファイルのファイル名は kdfilename.idx ですが、このオプションでファイル名を変更することができます。
なお、「-I」だけを指定すると、このファイルが作成されません。
- U[in_atr_name]** : 入力属性ファイル名 (初期値: ras_in.atr)
入力フォーマットの編集処理を設定するファイル。
- Z[out_atr_name]** : 出力属性ファイル名 (初期値: ras_out.atr)
出力フォーマットの編集処理を設定するファイル。

2. マルチページ処理に関するもの

- N[page]** : 入力がマルチページファイルの場合、処理するページを指定します。
page = 0 : 全ページを処理 (初期値)
page = 1~ : 指定ページのみ処理
- M** : 出力ファイルとして既存のファイルを指定すると、出力ファイルの最後に新しいページとして追加します。(出力属性パラメータ XBD_OUT=N)
出力ファイルとして既存のファイルを指定すると、既存のファイルと変換結果ファイルをバインダーに纏めて出力します。(出力属性ファイル XBD_OUT=Y)
それ以外の場合は、シングルページファイルとして新規に作成されます。
- MFILE[cols, pages]** : 入力がマルチページの場合、指定されたページ数ごとに分割して出力されます。
各出力ファイル名は、指定した出力ファイル名に番号を付加したものになります。
cols にはファイル番号の桁数を、pages には分割するページ数を指定します。

3. 拡大・縮小・回転などに関するもの

- XDW_LARGE : イメージデータが-P オプションで指定した用紙より大きい場合は用紙に収まるように、解像度を変更して縮小をおこないます。イメージデータのサイズと縮小サイズの比率が 10 倍以上になる場合は縮小できません。
- AJ : -P オプションで指定した出力サイズより大きい場合のみ、そのサイズに納まるように縮小されます。
- W[width] : 出力水平方向のドット数を指定します。
- H[height] : 出力垂直方向のドット数を指定します。
- WM[width] : 出力水平方向の長さを 1/100mm 単位の値で指定します。
- HM[height] : 出力垂直方向の長さを 1/100mm 単位の値で指定します。
- S[scale] : スケール値を指定します。
- X[xoff] : 水平方向のオフセット量を、ピクセル数で指定します。
- Y[yoff] : 垂直方向のオフセット量を、ピクセル数で指定します。
- XM[xoff] : 水平方向のオフセット量を、1/100mm 単位の値で指定します。
- YM[yoff] : 垂直方向のオフセット量を、1/100mm 単位の値で指定します。
- R[degrees] : イメージデータの回転を指定します。(90 度、180 度、270 度)
- MX : X 軸ミラー反転の指定をします。
- MY : Y 軸ミラー反転の指定をします。
- CL[pixels] : イメージの左側をクリッピングします。
- CR[pixels] : イメージの右側をクリッピングします。
- CT[pixels] : イメージの上側をクリッピングします。
- CB[pixels] : イメージの下側をクリッピングします。

4. 用紙サイズの指定に関するもの

- P[size] : 出力データサイズの指定
(101: 2A0、0:A0、1:A1、2:A2、3: A3、4: A4、5: A5、11: B1……)
用紙の向きは自動的に判断します。
- AR : 出力時のイメージデータの向きが、入力データの向き(横/縦)に関わらず、一定方向になるように自動的に回転します。
- XD[boundary] : 出力時に水平方向ドット数をバイト境界に整合します。
- YD[boundary] : 出力時に垂直方向ドット数をバイト境界に整合します。
- AL : 用紙サイズに合わせてセンタリングをおこないます。
- AG : 入力ファイルのサイズで出力します。
- RA : 指定したサイズになるように、余白の追加やクリッピングを行います。

5. 画像処理に関するもの

- BW[dither] : 2値(白/黒)で出力します。
- GLAY[depth] : グレースケール形式で出力します。
- RGB[depth] : RGB フルカラー形式で出力します。
- CMAP[depth] : インデックスカラー形式で出力します。
- CMYK[depth] : CMYK カラー形式で出力します。
- COLOR[fg/bg] : モノクロイメージをカラーイメージに変換します。
黒の部分が fg で指定した色に、白の部分が bg で指定した色に変換されます。
- RV : イメージの色を反転します。
- SHARP[level] : 画像のエッジを強調します。
- THIN[level] : 最大1ピクセル分の細線化をおこないます。全体的に線が細くなりますが、1ピクセル幅の線が無くなってしまうことはありません。
- THIN[level] : 最大1ピクセル分の太線化をおこないます。全体的に線が細くなりますが、隣の線とつながってしまうことはありません。

6. 複数イメージの合成に関するもの

- MERGE[merge_file] : 複数イメージの合成処理をおこないます。Merge_file は、合成するイメージの情報を記述したファイル(合成指示ファイル)です。合成処理を行う前には、前もってこのファイルをテキストエディタなどで作成しておく必要があります。
- MOPAQUE : 上書きで合成します。(合成指示ファイル名内のみ)
- MOR : 色の濃い方を優先して合成します。(合成指示ファイル名内のみ)
- MAND : 色の薄い方を優先して合成します。(合成指示ファイル名内のみ)
- MXOR : 色の差分を合成後の色とします。同じ色の部分は白となります。(合成指示ファイル名内のみ)
- MDIFF : 同じ色の部分はそのまま、色が異なっている部分だけ赤で表示します。(合成指示ファイル名内のみ)
- TRANS[color/eps] : 合成するイメージの中の color で指定した色と同じ色のピクセルを透明として扱います。
- ALPHA[value] : 合成指示ファイルないで指定すると、合成処理をおこなう際にイメージを半透明にして合成します。value で任意の透明度を指定することができます。
- NM[page] : 合成処理での合成先の指定をします。

7. バッチ処理

-BATCH[batch_file] : バッチファイル名
指定されたファイル又はディレクトリ内のファイルを一括処理したい時に利用します。

<制限事項>

- ① バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大 255 文字までです。
- ② ファイルでワイルドカードを使用する場合は、入出力ファイル共に必ずワイルドカードを指定して下さい。
どれか1つでもワイルドカードになっていないと変換に不具合が発生します。
ファイルでワイルドカードを使用する場合は拡張子を指定して下さい。
なお、ワイルドカードを指定する場合は同一ディレクトリを指定できません。
必ず異なるディレクトリを指定してください。
- ③ 出力コマンドは指定されたコマンドの後に出力ファイル名を付加して実行します。
内容についてはシステムによって異なりますので弊社では責任を問いません。
- ④ ワイルドカードで指定した場合の処理されるファイルの順番はアルファベット順で処理されます。
- ⑤ 漢字のファイル名は Windows 版のみ有効になります。
- ⑥ スペースを含むファイル(フォルダ)名を指定することはできません。

<バッチファイル作成上の注意>

- ① バッチファイル内の項目は半角英数字で作成して下さい。
- ② バッチファイルはテキストファイルで作成して下さい。
- ③ ファイル名の文字数についての制限はシステムに依存します。

8. その他

-EM[mail_file] : メール定義ファイル mail_file の内容に従って変換結果をメールで送信します。

-TX[test_file] : アノテーション定義ファイル名
アノテーションの貼り付け処理を行います。

-LOG[log_file] : ログファイル名(初期値: 標準出力)
変換結果をログファイルへ出力します。
常に最後 1 つのデータ変換のみ書込まれ、前のデータは消えてしまいます。

-RIREKI[rireki_file] : 履歴ファイル名
変換結果のファイル情報を履歴ファイルへ出力(追加)します。
既に rireki_file が存在している場合は、最後のデータとして追加します。

-XMLLOG[xmllog_file] : XML 形式のログファイル名(***.xml)
変換結果を XML 形式でログファイルへ出力します。

-XMLRIREKI[xml_file] : XML 形式の履歴ファイル名(***.xml)
変換結果のファイル情報を XML 形式で履歴ファイルへ出力(追加)します。

-Q : ヘルプメッセージ

属性設定ファイル

■ DocuWorks 出力属性データ変換パラメータ

パラメータ	説明
OUT_VERSION = 出力データ形式	NORMAL (標準圧縮 画像劣化あり) LOSSLESS (非圧縮 画像劣化無し) HIGHQUALITY (高画質 画像劣化あり) HIGHCOMPRESS (高圧縮 画像劣化あり)
PAPER_SCALE = (0, 1, 2)	用紙サイズ毎にスケーリングや回転を行います。
INSERT_ORGFILE = X (Y or N)	入力ファイルの添付設定 Y: 入力ファイルを変換した DocuWorks 文書に添付します。 N: 入力ファイルを添付しない。
PAPER_OUTDIR = X (0 or 1) An_OUTDIR = XXXXXX AnL_OUTDIR = XXXXXX n : 0~4	出力先を出力用紙サイズ毎に分配設定 1: 出力先を出力用紙サイズ毎に分配する。 0: 出力先を出力用紙サイズ毎に分配しない。 用紙サイズ毎に出力先ディレクトリ名を設定 xxx: ディレクトリ名
OUT_FORMAT = X (0~3)	OCR 処理 (DocuWorks に内蔵されている機能を利用) の有無と OCR 結果の出力を設定 0: OCR 処理を行わない 1: OCR 処理を行う 2: OCR 処理と結果をテキストファイルに出力 3: OCR 結果をテキストファイルに出力
OCR_NOISE = X (0~3)	OCR 処理を行うページのノイズ除去の強さを設定 0: ノイズ除去を行わない 1: ふつう 2: 弱く 3: 強く
OCR_LANGUAGE = X (0~2)	OCR 処理を行うページの言語を設定 0: 自動判別 (default) 1: 日本語 2: 英語
OCR_INSERTSPACE = X (0 or 1)	OCR 処理の結果に空白文字を入れるかどうかを設定 0: 挿入しない (default) 1: 挿入する
OCR_JAPANESE = X (0 or 1)	OCR 処理を行う時に日本語知識処理を行うかどうかを設定 0: 処理しない 1: 処理する (default)
OCR_FORM = X (0~2)	OCR 処理を行うページの構成を設定 0: 自動判別 (default) 1: 表 2: 文書
OCR_COLUMN = X (0~4)	OCR 処理を行うページの段落を設定 0: 自動判別 (default) 1: 横書き一段 2: 横書き多段 3: 縦書き一段 4: 縦書き多段
OCR_AUTODESKEW = X (0 or 1)	OCR 処理を行うページの傾き補正を設定 0: 行わない 1: 行う (default)
OCR_PAGE = X	OCR 処理を行うページを設定 0: 全てのページに対して OCR 処理を行います (default) 1: 1 ページ目だけに OCR 処理を行います 3, 5: 3, 5 ページ目に対して OCR 処理を行います
OCR_ENGINELEVEL = X (0~2)	OCR エンジンの認識精度のレベル 0: 標準 (default) 1: 速度優先 2: 認識率優先
OCR_LANGMIXEDRATE = X (0~2)	英語混在時の英語の混在比率 0: 日英同程度 (default) 1: 主に日本語 2: 主に英語
OCR_HALFSIZECHAR = X (0 or 1)	英数記号文字を半角文字に変換 0: 変換しない 1: 変換する (default)
XDW_SECURITY = 予約したコード XDW_OPEN_PWD = Open Password XDW_FULL_PWD = Full Access Password	予約したコード: XDW データにセキュリティを設定予約したコード、 セキュリティの権限を指定します (次ページ参照) Open Password: 「開く」パスワード (初期値: 無し) Full Access Password: セキュリティアクセスパスワード
XBD_OUT = Y or N	バインダー処理を設定 Y: 行う N: 行わない (default)
SFX_DOCUMENT = Y or N	自己解凍形式の出力を行うかどうか設定 Y: 行う N: 行わない (default)

XDW_SECURITY パラメータの説明 :

XDW_SECURITY は次に示したコードを予約しています、予約したコードを指定し、セキュリティの権限を決めます。複数のコードを組み合わせて使用する事も可能です。

※セキュリティ機能を使用する場合は、DocuWorks6.0 以上がインストールされている必要があります。

コード	セキュリティの権限 (許可する以外は保護されます)
0	全て禁止
2	文書の編集を許可
4	アノテーションの編集を許可
8	印刷を許可
16	転記を許可

XDW_OPEN_PWD パラメータの説明 :

「開く」パスワードとは変換した DocuWorks 文書を開く時のパスワードのことです。

XDW_FULL_PWD パラメータの説明 :

フルアクセスパスワードとはセキュリティ設定を無効・変更する時のパスワードの事です。

パスワード設定の規則 :

- ・使用できる文字は半角英数字で、大文字・小文字は区別して扱います。
- ・パスワードは 255 文字以内で設定します。
- ・パスワードの先頭と最後に空白文字は設定できません。
- ・パスワードの途中であれば空白文字は設定できます。

セキュリティ設定の規則 :

- ・ XDW_SECURITY を設定していない場合は全て許可になります。
- ・ XDW_SECURITY=0 を設定した場合はそれ以前に許可設定を行っていても全て禁止になります。
- ・ XDW_SECURITY を設定して XDW_FULL_PWD を設定しない場合は、セキュリティ設定の無効・変更時にパスワード入力を要求されません。
(開いた時点では設定したセキュリティが有効になっています)
- ・ XDW_FULL_PWD を設定して XDW_SECURITY を設定しない場合は、セキュリティ設定の無効・変更時にパスワード入力を要求されます。(開いた時点では全て許可になっています)

セキュリティ設定例 1

XDW_SECURITY=4 : アノテーションの編集と
XDW_SECURITY=8 : 印刷を許可する。
XDW_OPEN_PWD= : 「開く」パスワードを使用しない。
XDW_FULL_PWD=Full : セキュリティの無効・変更パスワードを Full にします。

セキュリティ設定例 2

XDW_SECURITY=4 : アノテーションの編集と
XDW_SECURITY=8 : 印刷を許可するに設定しているが
XDW_SECURITY=0 : 最後に全て禁止を設定しているので全て禁止になります。
XDW_OPEN_PWD= : 「開く」パスワードを使用しない。
XDW_FULL_PWD=Full : セキュリティの無効・変更パスワードを Full にします。

セキュリティ設定例 3

XDW_SECURITY=4 : アノテーションの編集と
XDW_SECURITY=8 : 印刷を許可する。
XDW_OPEN_PWD= Open : 「開く」パスワードを Open にします。
XDW_FULL_PWD=Full Access : セキュリティの無効・変更パスワードを Full Access にします。

DocuWorks 出力属性ファイルのサンプル (xdw_out. atr)

```
#####xdw_out. atr#####
#TIFF->DocuWorks Compress
OUT_VERSION=NORMAL
#OUT_VERSION=LOSSLESS
#OUT_VERSION=HIGHQUALITY
#OUT_VERSION=HIGHCOMPRESS
# paper_scale (0(default):off, 2:on)
#PAPER_SCALE = 2
# (paper_scale) input and output size
OUT_PAPER_A4 = A4R1
OUT_PAPER_A3 = A3
OUT_PAPER_A2 = A3
OUT_PAPER_A1 = A3
OUT_PAPER_A0 = A3
# paper_size overflow limits [mm] (0 - 5(default) - 100)
PAPER_X_LIMITS = 15.0
PAPER_Y_LIMITS = 15.0
#DocuWorks security access password (default: null)
#XDW_FULL_PWD =
# security (0(default):off , 2,4,8,16:security code)
#XDW_SECURITY = 0
#DocuWorks open password (default: null)
#XDW_OPEN_PWD =
#insert original file (Y:on , N(default):off)
#INSERT_ORGFILE=N
#DocuWorks paper size output mode (0:off(default) , 1:on)
#PAPER_OUTDIR = 0
#DocuWorks paper size output directory
#A3_OUTDIR =
#A4_OUTDIR =
#OCR Mode (0:off(default) , 1:only OCR , 2:OCR & text out , 3:text out)
#OUT_FORMAT = 0
#OCR Noise Reduction (0:off(default) , 1:normal , 2:weak , 3:strong)
#OCR_NOISE = 0
#OCR Language (0:auto(default) , 1:Japanese , 2:English)
#OCR_LANGUAGE = 0
#OCR Insert space(0:off(default) , 1:on)
#OCR_INSERTSPACE = 0
#OCR Japanese Process(0:off , 1:on(default))
#OCR_JAPANESE = 1
#OCR Form(0:auto(default) , 1:table , 2:writing)
#OCR_FORM = 0
#OCR Column(0:auto(default) , 1:H-single , 2:H-multi , 3:V-single , 4:V-multi)
#OCR_COLUMN = 0
#OCR AutoDeskew (0:off , 1:on(default))
#OCR_AUTODESKEW = 0
#OCR Page (0-)
#OCR_PAGE = 0
#SFX Document (N:off(default) , Y:on)
#SFX_DOCUMENT = Y
#
#####end xdw_out. atr#####
(注)先頭行が#の行は、コメントになります。
```

動作環境

Windows XP / Server 2003 / Vista / Server 2008 / 7 / 8 / Server 2012 / Server 2016
※使用する DocuWorks のバージョンにも依存します。

標準価格

RS3XDW

15 万円 (税抜き)